

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690900564		
法人名	京都ユーメディスク株式会社		
事業所名	グループホーム マイスweetホーム		
所在地	京都市伏見区日野奥出21		
自己評価作成日	令和3年3月31日	評価結果市町村受理日	令和4年4月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JizyosyoCd=2690900564-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 きょうと福祉ネットワーク一期一会		
所在地	京都市右京区西院久田町5番地		
訪問調査日	令和3年7月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①認知症があっても出来る限り自分らしく生活していけるよう、職員は全力でサポートするという体制ができています
②利用者様一人ひとりの個性や考え方を理解した上で、その人に合ったレクリエーションや家事の手伝いなどを促し、本人のリズムを尊重した活気ある毎日を過ごして頂いている
③職員による手作りの作りたて料理やおやつを提供できている。おいしいといつも好評頂いている
④食事形態については画一的な見方をせず、献立や食材、食事時の様子を見て細かくしたりとろみをつけたりする判断をすることで、できる限りおいしく食事を続けて頂くよう心がけている
⑤利用者様の保清ができています。健康状態についてよく観察し、異状があれば看護師・クリニックに伝え対応できる
⑥フロア・居室は常に清潔に保たれており、特に新型コロナ感染症予防のため換気・加湿をしっかり行っている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

マイスSweetホームは開設されて、2年未満のグループホームで、閑静な住宅街にあります。法人の理念「ともに生きる」を掲げ、職員と利用者が一体となって楽しい場となるように努めています。居室空間は広くエアコンやトイレ、洗面台が完備されています。また、職員による手作りの食事やスイーツづくり、外出(ドライブ)をはじめお誕生日会など多様なレクリエーション、連携クリニックによる医療体制の充実などが主な特徴です。ご家族とはコロナ禍の中の制限がある中で、面会はできなくても、広報紙や自筆の手紙などによる情報提供は欠かさず、安心してもらえるように支援を行っています。今後は、地域密着型グループホームの位置づけの役目として、地域交流の場となることや、地域と主にある施設としての活躍などを運営会議をうまく利用して、運営に役立てていけるようにされていかれることを期待します。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに ○ 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている ○ 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は「ともに生きる」であり、利用者職員は被介護者と介護者という枠に囚われることなく互いに気持ちを通わせ、地域の方々にもご協力やご理解を頂きつつ生活を「作っていく」という考えのもとに事業を行っている	理念「ともに生きる」を事業所内に掲示して常に意識できるように心がけている。日常のケアにおいては理念に沿って一緒に楽しく生きることを大切にしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在は新型コロナ感染予防のため中止しているが、これまで町内会の定期会合や催しの場所を提供している。	昨年度開所したばかりではあるが、地域の町内会に場所の開放をしている。演奏会等の案内をしている。また、保育園との交流、散歩した際にあいさつのやりとりがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年度は新型コロナ対策により実施は出来ていないが、過去に同法人の有料ホームが町内会総会にて認知症について説明したり、施設見学・相談会を行ったことがある		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告内容は、入居者数と退去者数、広報活動、レクリエーション・イベント、職員研修の実施状況についての報告が主である。(昨年九月は新型コロナ予防のため中止、今年1月には現状報告のみの実施となっている)	施設長、副施設長、管理者、家族の希望者、地域包括支援センター、ケアマネジャー等の参加のもと、2か月に1回開催している。コロナ過においては報告事項は書面で事前に行い、会議後は議事録を作成し送付している。	地域を巻き込む方法として防災などをテーマにして呼び掛けてはどうか？また、報告するだけでなく意見の反映できる仕組みにしてはどうか？
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	特に問題がない状態において、あえて市町村担当者と密に連絡を取ることはしていない	運営推進会議に地域包括支援センターの出席があり、アドバイスをもらえる機会となっている。日常的な連携は取れていない認識している。	グループホーム協議会や地域密着協議会などの関係団体等に参画するとともに連携を図ってはどうか？
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	各利用者様の居室内については、転倒の危険ありやむを得ない場合のみセンサーマットを使用している(1件のみ)。施設内ドア・エレベーターは階段部分を除きすべて開放されており、離脱防止のため玄関の自動ドアのみ施錠している(内側からのみ、外側からは解放可能)	施設内研修が体系づけられている。スピーチロックを含め身体拘束にかかる内部研修を行っている。(年2回)日中は施錠を行わず、センサーマットの使用も限定的に同意を得て行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に職員研修を行い、高齢者虐待について学ぶ機会を設けている。明らかな虐待でなくても、今後つながる可能性がある・疑われる等の事例あればカンファレンスを行い確認、検討・周知している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は研修を受けるなどし学んでいるが、現場職員にまではその機会を与えていないのが現状である。必要と考えられる事例があれば、その都度説明するに留まっている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前のインテークの段階から入居決定・契約時にかけ丁寧に説明を行い不安の払しょくに努めている。入居後であっても何かあればすぐに連絡をとり理解・納得を図っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を開催している。普段より家族への連絡を行い、利用者様の状態を把握して頂いている。内容はすぐに記録し、周知に努めている。月に一回、各利用者様の担当者による自筆のお便りを発送している	運営推進会議を開催して家族にも参加してもらっている。コロナ禍で面会は禁止しているが電話等でやりとりをしている。オンラインも活用している。請求書を送付する際に広報誌及び自筆で発送している。(月1回)	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	自主目標の設定及び、個別面談を実施し各職員から意見を聞く機会を設けている	職員会議(月1回)、申し送り(朝夕)を通じて職員の意見や提案を聞いて事業運営に反映している。また連絡ノートを活用して職員間の情報共有をしている。必要に応じて個別面談を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善加算 I キャリアパス要件を定めるなど、やりがいによって能力を向上させるための職場環境を整えている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修を推奨しているが、新型コロナウイルス感染防止のため実施できず		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議に近隣施設の一つの特養日野しみずの職員に同席願っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居手続き時に本人・家族からよく話を聞き、どのように暮らしたいかを聞き出す。入居後も本人の言動をよく観察し、どのような状況の、何が安心につながるのかを常に模索し職員周知に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前のインテークの際には、必ず家族と本人同席のもとこれまでの生活上の問題点を聞き出し、施設でできる対応や解決策を提示している。入居後も家族と連絡を密に取り合い、状況を報告し改善に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時の主に家族との話し合いで得た問題点と、実際に施設で職員が感じた問題点を照らし合わせたうえでケアプラン作成を行い、随時更新する 現在外部サービス利用者はなし		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念は「ともに生きる」である。認知症を抱えていても、その人らしく健康で楽しく安全に暮らせるために、あくまでサポートをする役割であると捉えている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族と連携を密に取り合い、常に本人の状況を把握して頂くよう努めている。対応に家族の協力が必要である場合は、依頼している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	関係継続の実現のためには家族の協力が欠かせないが、新型コロナウイルス感染防止の観点より困難となっており、実施はできていない	コロナ禍のため面会や外出等制限のある中、家族との手紙のやりとりをしている方もいる。関係継続につながるよう支援している。昔の話題をたくさん話される方も多い。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全利用者様は日中ほぼフロアで過ごしておられ、互いに馴染みの関係となっておられる。時折あつれきが生まれることがあっても、これも関わり合いの一つと捉えて職員が介入・対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在サービス終了の利用者様なし		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成の際は、可能な限り本人の意向を伺いつつ家族にも助言を求めている。その他本人の言動をよく観察しつつ隠れた希望を推察し、できる限り叶えるよう努めている	所定のアセスメントシートを活用して、ケアプラン更新の際やサービス担当者会議にて本人・家族の思いや意向を聞いている。日々の中で一人ひとりから希望を聞き取り、楽しめるようにしている。(外出の希望が多い。)	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	インテーク又は入居契約時にこれまでの生活についてよく伺い、施設でもできることはできるだけ継続できるよう努める。前の事業所での様子もよく聞いておくようになっている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に本人の心身状態に気を配りつつ対応を続ける中で、状態の変化にいち早く気づきその都度変化に合わせた対応を考えるよう努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日利用者様の状態や様子について職員同士で報告しあい、変化や問題点があれば必ず家族と共有したうえで、ケアプランに反映させている	多職種(ケアマネ、看護師、介護職員、調理職員)でサービス担当者会議を開催し、意見を反映している。毎月、短期目標の達成評価を行っている。医療面についてかかりつけ医の指示のもと体調管理をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中、夜間を通じ利用者様の行動や様子、状態を記録している。一日二回の申し送りの際に使用し、職員全員の共有に努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の好みや能力に合わせたレクリエーションやリハビリを勧め機能維持に努めている。気候がよく、希望があれば施設の外へ散歩に行くことも多い		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	よく施設付近を散歩しているため、近隣住民の方々にはご理解頂いており笑顔で挨拶をして頂いている。21年春には近隣の障害者施設(南山城学園和光寮)で花見とカフェでランチを行った		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に家族により契約された当施設連携クリニックによる月2回の往診あり、その他特変等あれば24時間電話連絡が可能で、看護師又は担当医師より指示を受けられるようになっている	通院については、原則、家族による同行をお願いしている。入居時に連携クリニックと契約をして受診体制を整備し、月2回の往診がある。必要に応じ、救急時や入院等につなげている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	准看護師資格を持つ職員1名が常駐しており(日中のみ)、介護職員はいつでも利用者様の状態を報告し相談できるような体制となっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様の入院中は病院の地域連携室に連絡し状態把握に努めている。退院前カンファレンスを行い、帰設後の生活について確認している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り介護を行っている(指針あり)。重度化していると判断した段階で、医療と連携し家族とも話し合ったうえで本人にとって最適なプランを作成する。又は高齢により家族から希望ある場合には医師の判断を仰ぎDNRの指定をすることもできる	開所1年目であり。対象者はいないが、想いに沿ったケアができるように、多職種で医療連携をとりながら、最後までその方の尊厳を大切にできるよう、職員全体で支援していく準備として研修を行っている。職員間で指針の確認も行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応の訓練を定期的に行っており、手順や連絡先をフロー図にしてわかりやすい所に示している。マニュアルもあり職員はいつでも参照できる		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成している。防災委員会を設置し、消防署の指導のもと定期的に訓練を行っている	防災マニュアルを整備するとともに防災委員会を設置している。避難訓練は年2回実施し、うち1回は夜間想定訓練を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各利用者様の個性や性格を把握し、状況に合わせた声掛けを心がけ、決して命令口調ではない声掛けを徹底するとともに一人ひとりの人格の尊重を最大限心がけている	利用者を尊重し、押し付けにならないようにその人に合わせた声掛けをしている。コミュニケーション研修を行っている。(年2回)プライバシーの配慮としてお風呂に暖簾をかけた部屋に入るときは必ずノックしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日ごろから丁寧に利用者様の言動を観察し、表出できない希望を引き出すようにしている。自己決定を重んじ、希望はしっかり聞いたうえでできることはできる限り叶える努力をしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の様子を見て、マイペースに過ごしたい人にはある程度自由にして頂き、レクリエーションへの声掛けはその人の得意な事や好きな事を主にして頂くようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月一回の訪問理容の声掛けや、整容に必要な物品などの購入依頼に応じている。毎日の髭剃りや整髪、季節に合わせた衣類の着用を促す		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週に一回職員が献立を考え、利用者様にも意見を聞いている。簡単な調理や後片付けは利用者様にも手伝って頂き一緒に行っている。月二回の企画レクリエーションの際には、特別食を用意する	職員が手作りで食事を作っている。利用者にも意見を聞いている。できる場所は、利用者にも手伝ってもらってる。月2回の企画レクリエーションの特別職や季節感に合わせたメニュー、手作りスイーツなどを提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量は全て記録している。食事時の様子をよく観察し、咀嚼力・嚥下力に合わせてとろみをつけたり、おかゆを準備し副菜を細かく切るなどの対応をしている。連携調剤薬局の栄養士による献立チェックを受けている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助が必要な利用者様には、毎食後口腔ケアをして口の中の残渣物を取り除いたうえで服薬介助をしている。全員就寝前には必ず口腔ケアを促している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	現在オムツ使用の利用者様なし。必要な方には定期的にトイレ行きを促し誘導、見守り介助を行い清潔を保っている。その際下衣の上げ下げなどは困難な方のみ介入している	排泄パターンや水分量を個人記録におさめ、声掛けを行っている。できるかぎり、トイレにて排泄ができるよう自立支援を行っている。各部屋にトイレが整備されている。(現在オムツ使用の利用者様なし。)	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便カウントは常に確認するとともに、適切な水分摂取を心がけ、ヨーグルトなどの乳製品や繊維類の摂取、毎朝の体操・適度な運動や屋外での散歩をするよう努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	介助が必要な利用者様には職員が介助できる時間帯で希望を聞きつつ入浴して頂くが、自立の方にはいつでも可能と伝えている	週2日の入浴日を設けているが、職員が介助できる時間帯で希望を受けている。個浴で見守りで入る人が多い。(特浴もあるが使用している人はいない。)	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室内の点検を行い、適切な温度・湿度管理に努めると同時に、各利用者様一人ひとりのこだわりや習慣にも気を配り安眠できる環境を整えている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は各利用者様の薬情を確認できる。任診結果などから内服薬等の変更があれば、その都度周知し状態変化の確認をしている。全利用者様に服薬支援をしており、一人ひとりの状態に合わせた支援方法を用いている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各利用者様の様子を見たり話をするなどして、何をするのが好きなのかを理解し促すようにしている。全員に同じレクリエーション等を強要することは決していない		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナ感染防止対策もあり、外出は施設外周辺の散歩にとどまっているが、ようやく3月末には近所の障害者施設内カフェにて花見とランチを楽しんで頂いた	コロナ禍で制限のある中で近隣周辺の散歩を楽しむなど工夫をしている。また、9名全員でドライブで紅葉を楽しんだ。以前には個別に買い物を手伝ってもらったりしたこともある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	強い希望あれば家族に紛失にリスク説明し了承頂いたうえで、金額を伝えて渡している。外出時の買い物については新型コロナ感染防止のため実施できず		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	実際に家族と往復書簡されている利用者様あり。希望あればいつでも家族と電話して頂いている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度・湿度管理には常に気を配っている。各居室は整頓され、安全で安心できる空間が作れていると思われる。フロアでは、常に季節感ある装飾や貼り絵などを施し、イベント時などに撮影した各利用者様の写真を掲示している	明るく清潔感のある空間となっている。温度、湿度の管理を行っている。季節に合わせた装飾やテーブルやソファの配置を工夫することで落ち着ける空間になっている。テレビを見ながら利用者同士で談笑をして居心地の良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になりたい時はいつでも居室にいて頂いている。フロアはあまり広くないので、施設エントランスのソファに数人で座ってお話されることもある		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人・家族が持参された家具や私物を置き安心できる空間を作っているが、歩行不安定などありあまりに物が多く危険が生じる時は、本人・家族と相談し整理させて頂くこともある	居室空間はフローリングで広く各部屋にエアコン、洗面台、トイレが整備されている。持ち込みは各自自由で入居時に持参された家具や私物をおいており、居心地よく過ごせる空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要であれば張り紙などをしてわかりやすくする工夫をしている。常に職員が利用者様一人ひとりの能力を見極めつつ見守り・介助をしている		